

お母さん、子どもの自ら育つ力を信じましょう！

文・写真＝ながたに睦子

「りんごの木子どもクラブ」の柴田愛子先生にお話を伺ってきました

『けんかのきもち』という絵本を「存じですか？」
 友達とけんかをしてしまう子どもの気持ちを、シンプルな言葉と印象的な絵で表した、素敵な絵本です。この作者でもある柴田愛子先生は、横浜市都筑区で「りんごの木子どもクラブ」という小さな幼稚園を運営しています。こどもの自ら育つ力を信じ、子どもと共に親も育ちあおう！ という愛子先生のメッセージをお届けします。

1年半ほど前、友人から誘われて、日野市の「なかだの森」と呼ばれるプライバーケで開催された柴田愛子先生の講演会に参加した私。初冬の空の下、落ち葉の上に座りながらのびのびと愛子先生のお話を聞くことができ、帰る頃には、日頃悩んでいた子育ての悩みが、ふつと軽くなっていたことを覚えています。その時からすっかり愛子先生のファンになってしまった私は、念願かなって「りんごの木子どもクラブ」（以下「りんごの木」と表記）の保育の様子を見学することができました。

この日まず伺ったのは「小さい組」と呼ばれ

る、2・3歳児の保育室です。そこは、台所があり、トイレがあり、お風呂があり……と、普通の家庭のような空間で、子どもたちは本を読んでもらったり、庭では泥遊びをする姿が見られました。愛子先生のお話では、広い園舎や園庭ではなく、愛子先生自身に可能な力量の中で、子どもにとってベストな保育が出来るように、この場所を選んだとのことです。

その後、愛子先生と一緒に「畑」と呼ばれる場所に移動しました。そこでは「大きい組」と呼ばれる、4・5歳児がのびのびと遊んでいました。「畑」と聞いて、私は言葉通りの「畑」を想像していたのですが、住宅街を抜けて辿り着いたその場所は、広々とした空き地に手作りの遊具や小屋が作られ、子どもたちが伸び伸びと遊んでいるとても素敵なお所でした。

「ここでは子どもは何をしてもいいの。みんな自分のやりたいことをやって遊んでいるのよ」。



りんごの木の保育室は、「大きい組」と「小さい組」にわかれている。こちらは「小さい組」の室内



通称「畑」は、りんごの木の第3の保育室とも呼ばれる。以前に地元の方が私塾として使っていた場所を、縁あって使わせてもらうことに。600坪もある広さ!

愛子先生はこんなお話をもして下さいました。



近所の方がふらっと顔を出し「ほら! トノサマバッタ見つけたぞ!」と声をかける。傍で遊んでいた子どもたちも愛子先生も見守っていました。



このハンモックは、卒業記念品としてお母さんたちによって編まれたとのこと! 風が抜ける木の下でゆられている姿は、とても心地よさそう

愛子先生は笑顔で子どもたちを見守りながら続けます。「私は子

どもに、『産まれてきて良かった』と思える人が、トイレがあり、お風呂があり……と、

普段の家庭のよ

うな空間で、子どもたちは本

を読んでもらったり、庭では泥遊びをする姿が見られました。愛子先生のお話では、広い園舎や園庭ではなく、愛子先生自身に可能な力量の中で、子どもにとってベストな保育が出来るように、この場所を選んだとのことです。

その後、愛子先生と一緒に「畑」と呼ばれる場所に移動しました。そこでは「大きい組」と呼ばれる、4・5歳児がのびのびと遊んでいました。「畑」と聞いて、私は言葉通りの「畑」を想像していたのですが、住宅街を抜けて辿り着いたその場所は、広々とした空き地に手作りの遊具や小屋が作られ、子どもたちが伸び伸びと遊んでいるとても素敵なお所でした。

「ここでは子どもは何をしてもいいの。みんな自分のやりたいことをやって遊んでいるのよ」。

愛子先生はこんなお話をもして下さいました。

子どもたちが集まっている学童保育のよう

な場所だった。だから今、その家を再現したい

ところが、子どもたちについてくるのよ。そんな時

に夢中になつてやり続けるという時期が来るの

になりました。

「4・5歳児の3学期頃になると、一つの遊び

に夢中になつてやり続けるという時期が来るの

になりました。

「畠」には大人もしゃがめるほどの大きな穴が

掘られていて、そこの中でおしゃべりをしている

子など……。

子どものまいました。その穴に私が目を奪わ

れている様子が見られました。ホースで水をまい

ている子、穴を掘っている子、どろんこになつて

遊んでいる子、ハンモックでゆらゆら揺れている

子など……。



「あいこさん、靴がなくなっちゃったの」「あら、そうなのお、困ったねえ!」この子は、その後1人で靴を探し「あいこさん、あったよ!」と報告に。「大人が見つけてあげるのは簡単。でも、「そろねえ、靴がないと困るよねえ」と一緒に気持ちになってあげるだけで、大人が先回りしなくて、ちゃんと自分で靴を探すよ」と愛子先生



この穴が「とことん週間」で子どもたちだけで掘った穴。大きさにびっくり! この日もひたすら穴を掘り続ける子がいた



「あいこさん! 泥だんご、見てー!」「あら、上手に出来たねえ!」愛子先生のそばには、子どもたちが次々に寄って来る



青空の下でのびのび遊ぶ子どもたち。こうやって好きなことを自由にして遊びができる場所で、子どもは経験を積んで自ら育っていく。昔はどこにでもあった「空き地」がどんどん減ってきていているのは残念でならないと愛子先生



「りんごの木子どもクラブ」代表の柴田愛子先生（以下愛子先生と表記）。子どもたちを見つめる笑顔は常に温かい。りんごの木では、親も子も「あいこさん」と呼んで慕っている

期に、やりたい遊びを選んで、月曜日から金曜日までとここんで続けるよ! という「とことん週間」を設ける。あの穴は、そのときに子どもたちが掘ったものよ。子どもも穴を掘るのが好きなのよ。「もうなりたい」と言つて、2ヵ月掘り続けた子もいたのよ。『へえー、もぐらになるってどんな気持ちだろうねえ』って、私も一緒にその穴に入つてみたのよ。そしてなんだか気持ち良くなっちゃつてね。そしてとことんまで自分のやりたいことをできた子は、ずっとその遊びから離れて、また別の遊びを探すのよ』

日々の育児の中で、「はい、もうやめようね」と大人の都合で子どもの遊びの時間を断ち切つてしまふことは、多々あります。そんな時、たいてい子どもはとても不服そうな顔をしています。その日の遊びの時間が終わつてもまた次の日、その次の日と、気の済むまで自分のやりたいことをとことんやらせる子どもたちは、きっととても生き生きとした表情をしているのだろうと、その日の嬉で遊ぶ子どもたちの様子を見ていて思いました。

また、こんな場面もありました。愛子先生

の視線の先に、ホースで水を流し続ける一人の男の子がいました。自分もびっしょりになりながら楽しそうに水をやりぱりぱりと流しているのですが、周りは大きな水たまりが……。しばらくして、愛子先生は笑顔ですつとその子に近づいて、「○○、ずいぶんたくさん水をまいなね。ここにはずいぶん大きな水たまりができちゃつたから、今度はあっちの畑のほうに水をまいてよ」といつて、そつとホースに手を添え、彼に別の場所に移動するよう促しました。私だったら「ああそんなに水をまいてー! 服もびしょびしょ、もう終わりにしようね」と言つて止めさせてしまつたと思いますが、きっとそれではその子は納得しなかつでしょう。

愛子先生はこんなお話をもして下さいました。

「りんごの木では、月に一度『お話会』（保護者会のよのもの）という時間があるんです。保育者と父母が、日頃の保育の内容や、子どもたちの様子などをみんなで話すの。そこでは自分が子どもだけではなく、他の家庭の子どもたちの話を聞くでしょ。自分の子、人の子、みんなで問題を考え、支え合つて、助け合う。そうすることであれ、親も大きく成長するの。自分の子だけを見ていると、どうしても視野が狭くなるでしょ。

最後に、愛子先生に子育て中のお母さんに向けたメッセージを伺いました。

「りんごの木では、月に一度『お話会』（保護者会のよのもの）という時間があるんです。保育者と父母が、日頃の保育の内容や、子どもたちの様子などをみんなで話すの。そこでは自分が子どもだけではなく、他の家庭の子どもたちの話を聞くでしょ。自分の子、人の子、みんなで問題を考え、支え合つて、助け合う。そうすることであれ、親も大きく成長するの。自分の子だけを見ていると、どうしても視野が狭くなるでしょ。

最後に、愛子先生に子育て中のお母さんに

お母さんは、「目に見える能力」だけでなく、『目に見えない子どもの力』を引き出してあげ

愛子先生はこんなお話をもして下さいました。

「お母さんたち、子どもの育つ力を信じて下さ

りません。お母さんはちゃんと自ら育つ力を備わっています。お稽古ごとは親の安心料であつて、親も聞くでしょ。自分の子、人の子、みんなで問題を考え、支え合つて、助け合う。そうすることであれ、親も大きく成長するの。自分の子だけ

を見ていると、どうしても視野が狭くなるでしょ。

そして、「お母さんたち、子どもの育つ力を信じて下さ

ります。お母さんはちゃんと自ら育つ力を備わっています。お稽古ごとは親の安心料であつて、親も聞くでしょ。自分の子、人の子、みんなで問題を考え、支え合つて、助け合う。そうすることであれ、親も大きく成長するの。自分の子だけ

を見ていると、どうしても視野が狭くなるでしょ。

◆協賛ブース枠◆



のびのび子育て応援マガジン「月刊クーヨン」がおもちゃ・絵本えらびのワークショップを開催。さらに、「月刊クーヨン」パパスナップの出張撮影会や、ジェラルド&ピギーの「ぞうさんぶたさん」ぬりえお面づくりワークショップも大好評でした。



中越パルプ工業のご協力をいただき、竹を100%利用した世界初の「竹紙」がフェスに初登場。竹風車の羽、折り紙、お絵かきノートとしてワークショップで活用されました。あたたかでナチュラルな風合いの竹紙に老若男女が魅せられました。



エクストリームけん玉の伝道師<430>NOBさんを迎えて、KENDAMA TOHOKU プロジェクトの一環として「けん玉ワークショップ」を実施。けん玉を気軽に楽しんで頂けるフリースペースとしても開放し、たくさんの子どもたちがけん玉を楽しみました。



お手軽フェイスペインティング、丸太を切って自分だけの焼印入りオリジナルコースター手作りなど、アウトドアメーカーならではのユニークな体験を提供。実行委員会のワークショップはロゴスのキャンプアウトドア用品で運営されました。



サンダルのデザインコンテスト、幼児向けのディスクゴルフは大人気。また、アウトレット・チャリティー物販を行い、売上は実行委員会に寄付いただきました。



洗っても落ちなくなる特殊なクレヨンでTシャツに自由に色塗りをしていただく、お絵かきTシャツ・ワークショップ(ぬりえではなく・自由にらくがき)を開催。カジュアルアウトドアブランドらしいおちゃめでかわいいKIDS作品がたくさんできあがりました。



putitonが進める東日本大震災復興支援チャリティー One Heartプロジェクトの一環として協働し、被災地域の幼稚園に寄付を行いました。



共同通信社より配信

朝日新聞 (2014.5.31)

婦人之友社「かぞくのじかん」(2014. 秋号)



フリー・ペーパー「FesechoEX」(2014, 春号)



地域情報紙「タウンニュース」(2014.6.5), (2014.6.2)



港北経済新聞 (2014.6.19付)

EVENT REPORT

6月21日・22日の2日間、神奈川

相模原市緑区にある「北口」(コ

タウン)で、「子どもみらいの子育て」

「もっと自由に外遊びを!コンセプトにしたイベント」なども開催され、「フェスティバル」が開催された。

センター会場の改札を出ると、目の前に竹の飾りなど飾る出店、ブレイブータのほか、子どもが参加できる遊び盛りだらけの「お遊戯」などが開催された。

セントアーチの改札を出ると、田代さんと田代は雨が降っているといふ。「子どもたちは元気で走り回っている。都会で久しく目に慣れていないなかつた先輩がそこには店

がついた」と、田代さんは感動している。会場には、田代によると、

「イベントの一環として、ブレイブアーチホールでは、篠田先生による講演会が開催された。篠田先生は、都区内にある未

認可保育施設へりんごの木子どもクラブの代表で、保育園は毎年ぐるぐるアーチの「お仕事」。組本作業としても日本最大の受賞経験を持つ

「お仕事」。実際、毎回先生は、誰かと優しさを全身にま

でこなす。田代によると、この会場には、田代の娘の「お仕事」には店

がついた」と、田代さんは感動している。会場には、田代によると、

「イベントの一環として、ブレイブアーチホールでは、篠田先生による講演会が開催された。篠田先生は、都区内にある未

認可保育施設へりんごの木子どもクラブの代表で、保育園は毎年ぐるぐるアーチの「お仕事」。組本作業としても日本最大の受賞経験を持つ

「お仕事」。実際、毎回先生は、誰かと優しさを全身にま

でこなす。田代によると、この会場には、田代の娘の「お仕事」には店

がついた」と、田代さんは感動している。会場には、田代によると、

「イベントの一環として、ブレイブアーチホールでは、篠田先生による講演会が開催された。篠田先生は、都区内にある未

認可保育施設へりんごの木子どもクラブの代表で、保育園は毎年ぐるぐるアーチの「お仕事」。組本作業としても日本最大の受賞経験を持つ

「お仕事」。実際、毎回先生は、誰かと優しさを全身にま

でこなす。田代によると、この会場には、田代の娘の「お仕事」には店

こどもみらいフェスティバル

文・中野麻里 写真・佐伯昌司

といった、とびきり元気な女性だっ

た。『イベント』、インターひとつで出でてくる

子育て中の妻の笑顔、美しいじゅう

い? あれは、「こうしなくちゃいけない」という教科書ではなくて、「こう

ない」という教科書ではない。『こう

ない』のかなっていう事なんですね』

そんな風に、画面となった会場の

笑いを誇る篠田先生。今では「子育

習力のある保育者」といわれるよう

になった篠田先生は、20代から30代

初めてでは、毫毛細胞もあったよう

だ。

『子どもがこんなに喜ぶように、

かないなんて、知らなかつたのよ。勉強すればするほど、説かわ

からなくなつていつたの』

今までも子育て中のお母さん、お父さんが抱えている悩み

を読みふけるように話す篠田先生。悩んでいたり困った答えは、

「どうやれば育てて正直な方法はないらしい」ということだった。

『質問やインターネットの情報は、あなたとあなたの子さんを

見て渡してくれるものではないですね。子どもは十八人十

歳で、私が何をしてほしいのではなくて、自分の気持ちをわかつ

てほしんだんですね。その気持ちを』

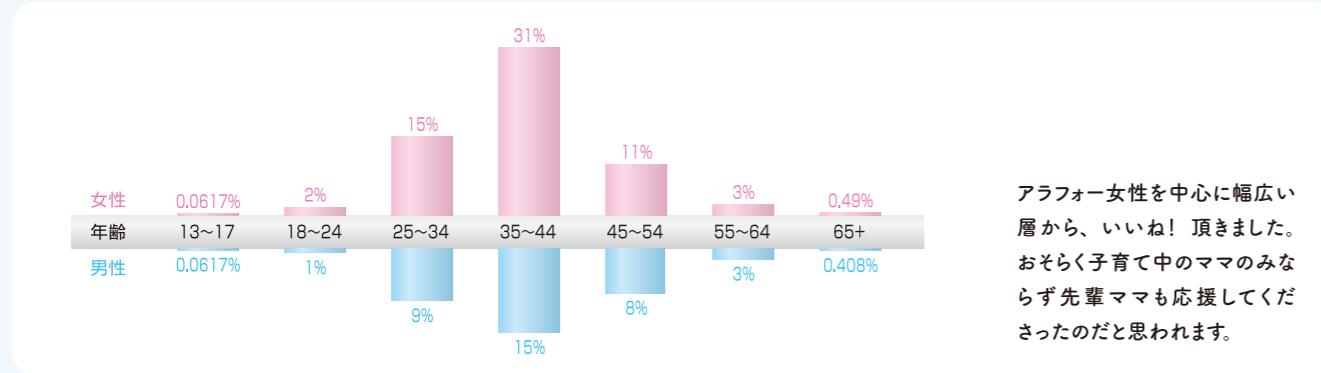
『私は、お仕事してほしのではなくて、自分の気持ちをわかつ

てほしんだんですね。その気持ちを』

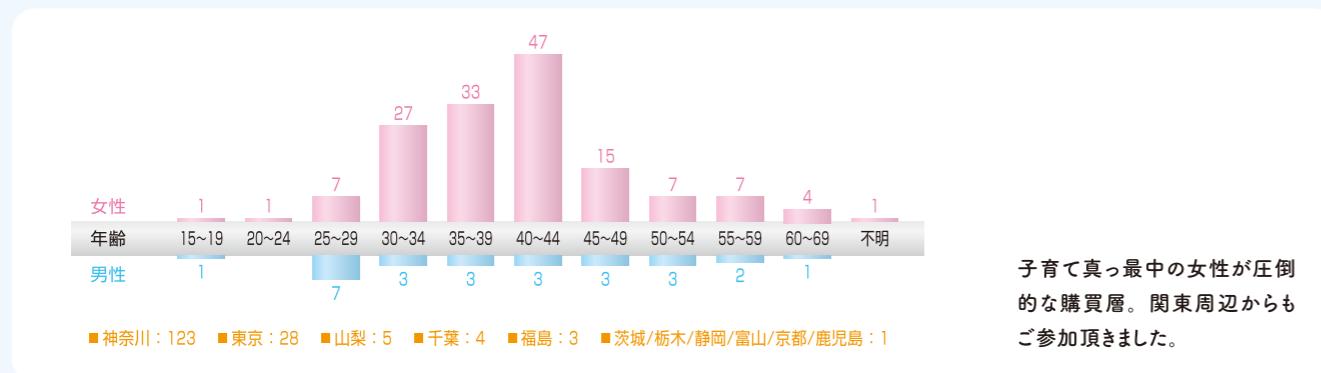
新しい日本をデザインするフリーペーパー「RICE PAPER 88」37号（2014.7.31）

その他掲載誌：クレヨンハウス「クーヨン」、サンケイリビング田園都市「えるるプラーザ」、子供とお出かけ情報サイト「いこーよ」、アウトドアニュースサイト「A-kimama」、神奈川新聞「カナロコ」、都筑区.jp/青葉区.jpほか多数

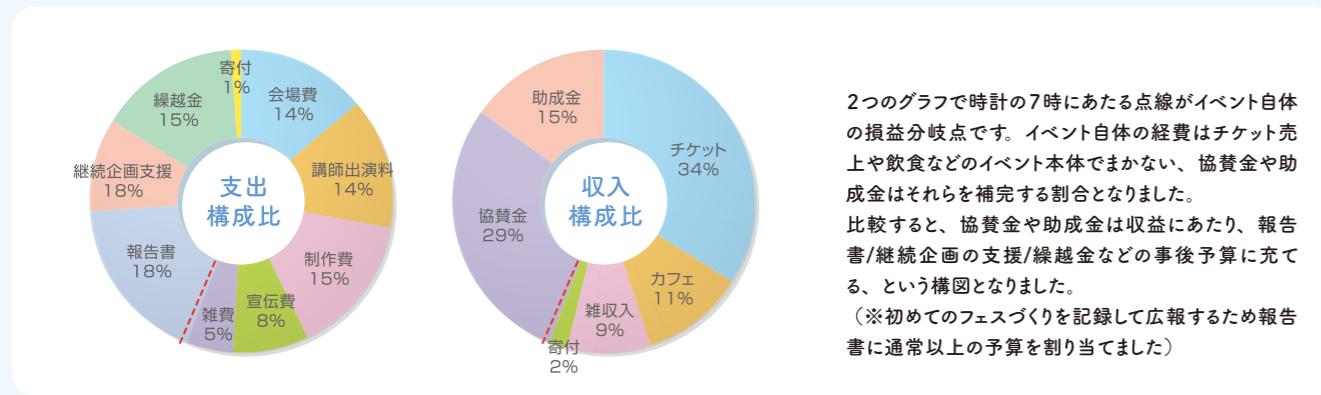
◆ Facebook いいね！ 1,222を基準とした年齢・性別構成 ◆



◆ プレイガイドチケット購入者の年齢・都道府県構成 ◆



◆ 収支比較と損益分岐ポイント ◆



◆ 収益イベント 2つの方向性 ◆

■ 実行委員会の収入企画

- 講演会・コンサート・映画
 - チケット販売収入
- カフェ
 - 事前…コミュニティカフェ機能を担う
(ワークショップの練習会、ミーティング会場)
 - 当日…駅前広場の飲食需要に対応
 - 事後…区民まつり等への出店
- 協賛社ブース
 - 協働によるハイオリティなコンテンツ提供
- その他：助成金（横浜市社会福祉協議会）

■ 実行委員会の収入外とした企画

- 独立採算制の導入
 - 得意なコトの持ち寄りイベント
 - 保育者や母たちのワークショップ
 - プレイパークのワークショップ
 - 母の手作りホットスペース（癒やしと会話の場づくり）
- 賑わいの醸成に大きく役立ちました
 - センターのモチベーションUPに寄与
 - ロイヤリティ（loyalty/親密性や信頼性）向上に寄与
 - カンパ精神（campaign/社会運動への寄付）醸成に寄与

◆ アンケート集計結果 ◆

